

ATの担い手について(整理案)

- 〔 ○ 「ツアーオペレーター」、「スルーガイド」及び「アクティビティガイド」の分類について検討
○ 第1回部会資料(石山委員提出)を基に、部会議論を踏まえて、機能別に次のとおり整理 〕

担い手	概要〔 〕内は関連するISO規格等	現状・課題	今後の検討方向									
ツアーオペレーター	<ul style="list-style-type: none"> AT顧客のニーズとディステーションの双方を理解し、地域の魅力的なATツアー造成を担う 海外のエージェントと商談を行い、組成したATツアーの販売も担う (ISO21102 ISO21103 ISO20611 WMS ILCOR)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>大手旅行会社</td> <td>地域旅行会社</td> </tr> <tr> <td>海外エージェントとのパイプ</td> <td>○</td> <td>△</td> </tr> <tr> <td>少人数のATへの対応力</td> <td>△</td> <td>○</td> </tr> </table> →次の10社程度が道内において要件を満たす対象と考えられる ① PSA採択オペレーター ② ①を目指しマーケットプレイスに出展		大手旅行会社	地域旅行会社	海外エージェントとのパイプ	○	△	少人数のATへの対応力	△	○	◇ ISOが各規格を企業単位で認証しているか不明 → まずは上記の確認が必要 → 認証されていない場合、独自の取組が必要か検討
	大手旅行会社	地域旅行会社										
海外エージェントとのパイプ	○	△										
少人数のATへの対応力	△	○										
スルーガイド	<ul style="list-style-type: none"> ツアーリーダーとして指揮をとる ATツアーにおいては、英語によるガイディングも担う (地域をコーディネートする能力を有する) (ISO21101 ISO21102 ISO21103 ISO20611 WMS ILCOR)	<ul style="list-style-type: none"> 旅程管理主任者(添乗員)の資格が必要 英語を母国語としない日本においては、英語によるガイディングが課題 	◇ 認証基準をどうするのか ◇ 級を設けるか(例:1~5級) <ul style="list-style-type: none"> 旅程管理主任者は必須か 「ATとは何か」→試験要? その他必要となる要件は?(WAFAdアドバンス、語学力、インタープリテーション能力等) アウトドアガイド項目(数)は? 									
アクティビティガイド	<ul style="list-style-type: none"> アウトドアアクティビティにおけるガイディングを担う (地域をコーディネートする能力を有する) (ISO21101 ISO21102 ISO21103 ISO20611 WMS ILCOR)	<ul style="list-style-type: none"> 道アウトドアガイド資格は「ISO 21101」に一定程度準拠していると考えられる 道アウトドアガイド資格の5分野以外のアクティビティへの対応 	◇ 現状の道アウトドアガイド資格の基準とISO規格との照合 <ul style="list-style-type: none"> ISO 20611対応は必須か ◇ 連携できる他資格はあるか(必要となる水準を満たすか)									
ATガイド	<ul style="list-style-type: none"> 「スルーガイド」と「アクティビティガイド」の両方を担う(ことが可能) 地域をコーディネートする能力を有する 	<ul style="list-style-type: none"> ATTAは上記の「スルーガイド」と「アクティビティガイド」の両方を満たすガイドを求めている 	◇スルーガイドとアクティビティガイドのいずれからもステップアップできるイメージ									

ISO21101
ISO21102
ISO21103
ISO20611
WMS
ILCOR

ISO 21101 Adventure Travel - Safety Management Systems(安全管理システム)
 ISO 21102 Adventure Travel - Leaders Personnel Competence(リーダーの担当能力)
 ISO 21103 Adventure Travel - Information for Participants(参加者向けの情報)
 ISO 20611 Adventure Travel - Good Practices in Sustainability(持続可能性に向けた取組)
 ウェルダネス状況下ケアに関する国際基準
 ファーストエイドに関する国際基準